

神奈川県生活協同組合連合会 臨時総会

神奈川県生活協同組合連合会は、2020年9月15日、横浜市内で臨時総会を開催しました。今回の臨時総会は、会員生協の経営状況が厳しく、かつ、その状況により県連会費を減額ないし免除することが他の会員生協から見てもやむを得ないものであると判断される場合には、県生協連の財政状況を考慮したうえで、理事会の議決により県生協連会費の減額または免除を行うことを可能とするように規約を改定するものです。

発言は書面で行い、横浜国立大学生協、神奈川中央医療生協、医療生協かながわ、川崎医療生協、神奈川みなみ医療生協の代議員から「大学生協部会として、現在の状況について」「新型コロナウイルス感染症による経営状況と組合員活動」「新型コロナウイルス感染症による経営困難」「コロナに負けない、川崎医療生協の選択」「新型コロナウイルス禍での組合員活動について」の主旨の発言を頂きました。

■ 期間／2020年9月15日(火) 14:00～14:10

■ 会場／スタンダード会議室 新横浜店

横浜市港北区新横浜2-3-19 新横浜ミネタビル6階

■ 代議員出席状況／28会員 代議員総数76名

採決時出席代議員数76名 うち委任出席数0名、書面議決出席数73名

■ 提案議案／「会員及び会の組織、代議員、会費に関する規約」改定承認の件



川崎医療生協 城谷創一代議員



「コロナに負けない、川崎医療生協の選択」

<発言要旨>

未知の感染症に立ち向かう方針を、患者・利用者・住民と職員を守る立場から、「感染拡大の防止、医療・介護・福祉の継続的提供、住民の不安に寄り添う、人とひとのつながりを絶やさない」を基本に据えた。

川崎市は、感染急増第1波のなかで、保健所や病院が一気に限界点に近づいた。発熱患者の受け入れを断る医療機関もあり、3月には地域医療が麻痺し始めた。けがや急病の救急搬送先がなかなか決まらない、いわゆる「たらいまわし」は、前年の3.7倍にまで増加した。川崎協同病院は感染が疑われる患者の受け入れを、診療所は体調不良の方の対応を出発点に、適切な診断・治療ルートへと導く役割を担うこととした。これは、普段から「住民に最適な医療・介護・福祉の提供体制をつくる。そのためには、自らの役割を変えることをいとわない」とする、生協にとって躊躇ない選択だった。感染の不安と恐怖。職員への重圧。そのなかで大切にされたことは、徹底した情報共有と、「困りごとは声に出し組織的に解決する」ということ。

6月に職員に行ったアンケート調査からは、「大きな精神的負担を自覚しつつ、意思疎通を重ね、チーム力を発揮し、医療・介護・福祉の提供を守り抜いた姿」が浮き彫りになった。

仕事上の精神的負担は、非常に大きい:13%、大きい:43%、メンタル不全の症状の自覚:77%、また20%の職員が「自分や家族が偏見や差別を受けた」と答えた。2度の院内感染という痛苦の事態を招いた病院においても、保健所や他院との密な協議と、地域から寄せられる暖かい支援や励ましを力に、困難を乗り越え、医療提供体制を保っている。

経営成績は最悪であり、利用を以前の水準に回復させることは容易ではないが、患者・利用者の回復・拡大は、私たちが行う医療・介護・福祉が、住民の生活と一体となり、暮らしを支えることができたという証ととらえ、全力をあげている。「声の地域訪問」として行った電話による対話活動は、たいへん喜ばれた。

人とひとのつながりは、いきいきとした生活の糧であり、協同組合の原点。今後も、地域活動の方針・指針を感染の動向に応じて変化させ、人とひとの輪を広げていく。生協は社会の深刻な状況について、利害や駆け引きでなく、社会の必要に率直に「ものを言う」ことができる。力を合わせて組合員や職員の気づきを活かし、気持ちを一つに困難を切り開いていこう。

生活クラブ生協のパートナーシップ促進センターで SDGs研修を実施

パートナーシップ促進センターは、生活クラブの業務委託W.Coと生活クラブ生協が、「自分らしく生き、互いにたすけあい、心豊かにくらす社会をつくる」という共通の目的に向かって、2005年6月に設立されました。目的に向けた政策の検討や教育研修の企画・実施、委託請負契約の協議などを行っています。

今回はSDGsをテーマとする2日間のリーダー研修で、県生協連は1日目に協力しました。県生協連のSDGs研修支援は、累計で12回(うち会員生協外は5回)となります。

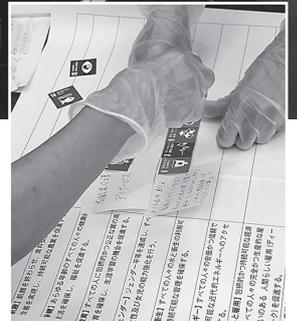
この研修は、教育研修方針に掲げているサステナブル(持続可能性)な社会づくりに向けて、SDGsを学び、委託W.Coが地域と生活クラブ・社会をつなぐ役割に寄与して行くことを高めていくことをねらいとするものです。

- 研修名/リーダー研修
- 日 時/2020年9月10日(木) 10:00~12:30
- 会 場/オルタナティブ生活館 3階 301室
- 参加者/各組織からの推薦23名、運営側:4名
- 研修内容/1日目

SDGsが掲げている「持続可能な開発目標のための2030アジェンダ」や国連で決定した17の目標で目指すことを学ぶ

「SDGsの視点を学ぶ~私たちの活動に引き寄せて~」

講師:石田 昌美 神奈川県生協連 統括マネージャー



医療生協新任理事研修

新型コロナウイルス感染症拡大は私たち生協の事業や組合員活動に大きな影響を与え、各種企画も中止になっています。研修会など学びと交流の機会も、例外ではありません。しかし、くらしと命を福祉・医療の分野から支える医療福祉生協への期待は大きく、果たさなければならない役割もますます高まっており、コロナ禍においても工夫して研修を積み重ねる必要があります。

今回、医療部会として初めてテレビ会議システムを使って新任理事研修会を行いました。参加者は、「経験が2年以内の理事」「理事の役割について再認識したい方」です。

研修会では理事の役割を深めることと併せて、県生協連の役割や県内生協の仲間、協同組合連携などについても学び、県生協連は、研修の成功のために講師として協力しました。

- 名 称/神奈川県生協連医療部会新任理事研修
- 日 時/2020年9月7日(月) 10:00~15:00
- 会 場/医療生協かながわ 戸塚診療所2階大会議室、川崎医療生協本部、神奈川北央医療生協本部、神奈川みなみ医療生協本部
- 参加者/17名
- 獲得目標/◇医療福祉生協の理事の役割と責任を学ぶ ◇理事として必要な知識を身につける
- 内 容/講演①「理事の役割と職務」

高瀬 信之 日本医療福祉生協連 執行役員

講演②「地域活動を推進する理事の役割」

馬場 康彰 日本医療福祉生協連 常務理事

講演③「生協ってすばらしい~思いやり・助けあい・支えあい~」

石田 昌美 神奈川県生協連 統括マネージャー

グループ討論:「2020年度自生協の重点課題と理事の役割について」





神奈川まるごと健康づくり



「健康」はすべての人の願いです。

フレイルを予防するための重要なポイントは「栄養(食・口腔機能)」「運動」「社会参加」です。この3点は体の免疫機能を高めるための重要なポイントでもあります。

健康チャレンジ2020

健康づくりは、きっかけがないと始めないもの。いつも出来ていないことを一つ「これをやろう、がんばろう」と決めて、10月・11月の間に30日間以上取り組むのが健康チャレンジです。コロナ禍の中、免疫力アップを目指して。

健康チェック

医療生協で健康チェックが再開しました。

神奈川みなみ医療生協の逗子中央支部は、9月25日に小坪の亀ヶ岡自治会館で健康チェックを行い、27名が体組成計測定や骨量測定を受けられました。外出を控えていたため、筋肉量、脚点(体重に占める脚の筋肉量の割合)、骨密度が「減っているのでは?」と心配されていた方がとても多く、測定が喜ばれて交流の場にもなりました。

感染リスクを減らすために

鼻呼吸 あいうべ体操 と 唾液腺マッサージを

★ 鼻呼吸

口呼吸は感染の元。口呼吸では、細菌やウイルス等が直接のどに取り込まれて肺に入ってしまう。口腔やのどが乾燥すると免疫力が落ちるために感染しやすくなるとされています。鼻は体に備わったフィルター。鼻毛や鼻水がある程度ブロックし、入ってくる空気も副鼻腔で温められるため感染リスクが減ります。マスク着用時に口呼吸になっている方が多いので注意しましょう。

★ あいうべ体操

あいうべ体操は、インフルエンザ予防で知られています。舌は年齢とともに上顎に着いている状態からだんだん下がってきます。舌が下がると口呼吸になります。あいうべ体操をしていると、口の周りや舌の筋肉が鍛えられて、口呼吸が鼻呼吸に転換していきます。

★ 唾液腺マッサージ

唾液は1日に1リットルから1.5リットルも分泌されます。唾液腺マッサージは、唾液の分泌を促して口腔内の乾燥を防止し、口腔機能を高め免疫力アップにつながります。



あいうべ体操でお口から健康づくり



① 耳下腺マッサージ

レモンなど酸っぱいものをイメージすると唾液が出てくる腺です。人差し指から小指まで揃えて、耳たぶのやや前の方、上の奥歯あたりのほほにあて、円を描くようにして優しく5~10回押しします。

③ 舌下腺マッサージ

あごの先端部分の内側、舌の付け根にある部分です。あごの真下から舌を突き上げるようにして両手の親指を揃え、ぐーっと押しします。5~10回を繰り返します。



② 顎下腺マッサージ

あごの骨の内側にある柔らかい部分にある腺です。耳の下からあごの先まで、指先で何力所かを押しします。5~10回を繰り返します。



大規模災害時における三者連携学習会

災害はいつどこで起こるかわかりません。災害は防ぐことはできませんが、その後の対応によって被害を軽減することは可能です。そのためには、平時から行政・NPO・ボランティア等と連携して大災害に備えることが大切です。

県生協連大規模災害対策委員会では、県・県社会福祉協議会・県共同募金会が大規模災害に備えて被災者支援・復興の県内ネットワークづくりの準備を開始したことを受けて、学習会を開催しました。

- 開催日／2020年9月16日(水) 14時～15時
- 会場／神奈川県生協連 会議室(実参加とリモート参加)
- 出席／かながわ県民活動サポートセンターボランティア活動サポート課、災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ、県生協連大規模災害対策委員会(ユーコープ、パルシステム神奈川、生活クラブ生協、うらがCO-OP、中央労働金庫、県生協連)



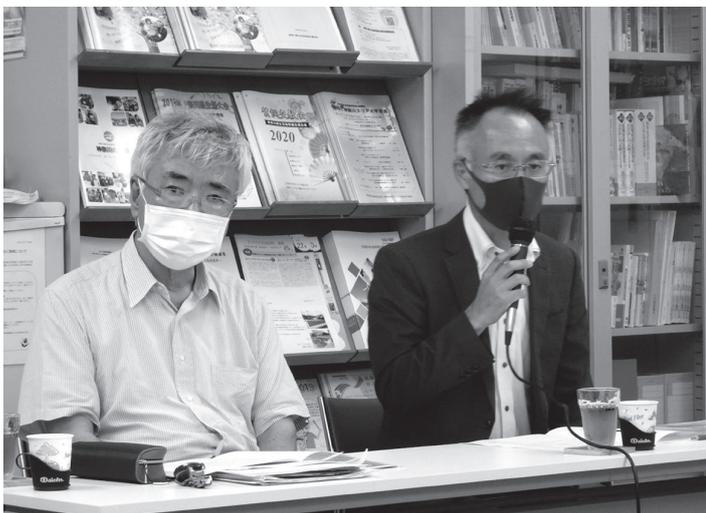
- 内容／1. 神奈川県における三者連携について
2. 大規模災害時における情報共有会議
3. 質疑・懇談

神奈川県消団連 「消費税学習会」

消費税増税は何をもたらしたか
—消費税の何が問題か—

神奈川県消費者団体連絡会では、9月10日、税理士法人コンフィアンスの益子良一先生をお呼びして消費税学習会を開催しました。消費税の仕組みと納税額の計算方法など基本的なことから、消費税増税で広がる格差・貧困の実態までわかりやすく説明を受けました。

その後、神奈川県保険医協会の園田事務局次長より、「消費税を含む税のあり方を考えるネットワーク」(略称:消費税ネット)への賛同の呼びかけがあり、県消団連として賛同し消費税ネットに参加することを確認しました。



お知らせ

消費税ネットスタート集会
～消費税を含めた税のあり方を考える～

- 日時／2020年11月21日(土) 14:00～16:00
(受付開始: 13:30)
- 主催／消費税を含めた税のあり方を考えるネットワーク(略称:消費税ネット)準備会
- 会場／建設プラザかながわ 2階 ホール
(JR・東神奈川駅、京浜急行・仲木戸駅 下車)
- 講師／斎藤 貴男さん ジャーナリスト

2020年度 第3回 理事会報告

- 日時／2020年9月15日(火) 14:15～15:50
- 会場／新横浜ミネタビル スタンダード会議室新横浜店 6階

【協議事項】

1. 神奈川県生協連70周年記念企画について

